

防除情報(病害虫情報 号外 第7号)

令和7年12月23日

神奈川県農業技術センター

タバココナジラミの防除について

抑制トマトと抑制キュウリにおいて、タバココナジラミの発生が平年より多い状況が続いています。

本虫はウイルス病(トマト黄化葉巻病、トマト黄化病及びキュウリ退緑黄化病)を媒介します。特に生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなります。

本虫の発生を抑えるために「施設内へ入れない」、「施設内で増やさない」、「施設から出さない」ことを徹底してください。特に、栽培終了後は、施設を密閉し、施設内の植物体が枯死してから施設を開放するなど、他の施設への飛び込みを防いでください。

発生状況

- (1) 2025年作の抑制トマトにおいて、10月のタバココナジラミ寄生葉率が、過去10年で最も高くなりました(図1)。
- (2) 同年作の抑制キュウリにおいて、11月のタバココナジラミ寄生葉率と本虫が媒介するキュウリ退緑黄化病の発病株率が過去10年で最も高になりました(図2、図3)。

施設内へ入れない

- (1) 出入口、側窓および天窓には0.4mm以下の目合の防虫ネットを設置する。
- (2) 出入口等の出入りが頻繁に行われる場所は防虫ネットを2重に設置する。
- (3) 施設内へ栽培作物以外の植物を持ち込まない。

施設内で増やさない

- (1) 黄色粘着板や粘着テープにより成虫を誘殺し、早期発見に努める。
- (2) 発生予察情報やほ場の見回り等による早期発見に努め、薬剤防除は発生初期に重点的に実施する。
- (3) 化学農薬を使用する場合には、同一系統の農薬の連続使用を避け、異なる系統の農薬によるローテーション散布を行う。
- (4) ウィルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。
- (5) 雑草は害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。

施設から出さない

栽培終了後に必ず蒸込みを行う。温度が上がらない時期においても、地際部を切るか根を抜き取り、7~10日以上密閉し、施設内の植物体が完全に枯死してから施設の開放を行う。

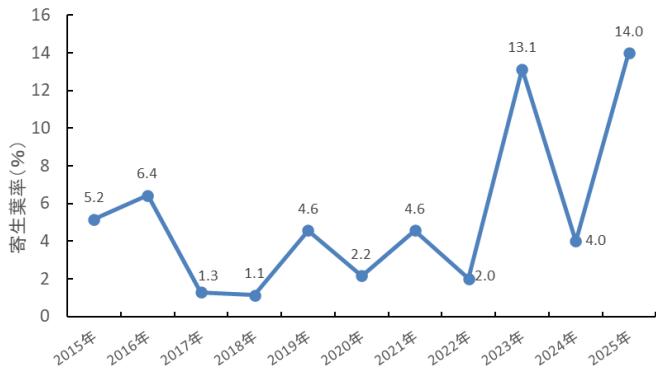


図1 抑制トマトにおける10月のタバココナジラミ寄生葉率の推移(2015年～2025年)

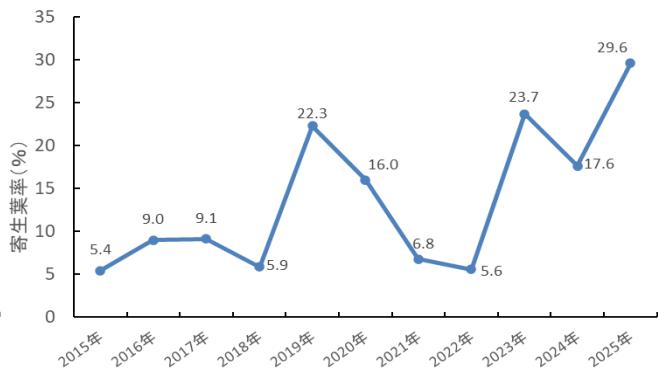


図2 抑制キュウリにおける11月のタバココナジラミ寄生葉率の推移(2015年～2025年)

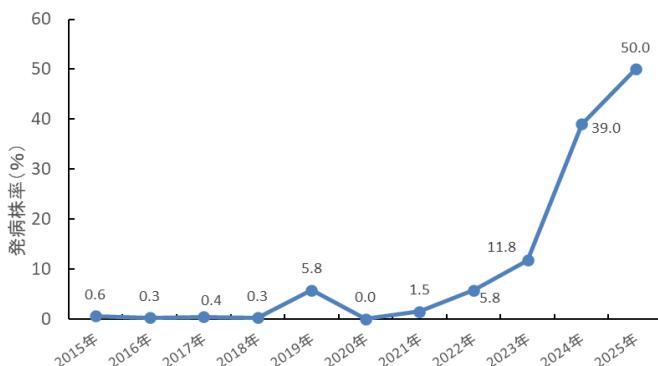


図3 抑制キュウリにおける11月の退緑黄化病
発病株率の推移(2015年～2025年)

防除薬剤例

防除薬剤例を示しました(表1、表2)。

農薬使用の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守してください。

同一系統の農薬の連続使用を避け、異なる系統の農薬によるローテーション散布を行ってください。

表1 トマトに対する防除薬剤例(2025年12月17日現在の農薬登録情報に基づく)

使用時期・使用方法	IRACコード	薬剤名
【育苗期：粒剤施用】	4A	アルバリン粒剤 または スタークル粒剤
	4A	ベストガード粒剤
【育苗期後半～定植時 ：粒剤施用または灌注】	28	プリロッソ粒剤オメガ
	28	ベリマーク SC
【定植時：植穴施用】	4A	モスピラン粒剤
	4A	ダントツ粒剤
【散布】	4A	アルバリン顆粒水溶剤 または スタークル顆粒水溶剤
	4A	モスピラン顆粒水溶剤
	5	ディアナSC
	9B	コルト顆粒水和剤
	23	モベントフロアブル
	30	グレーシア乳剤
	—	サンクリスタル乳剤
	—	ベミデタッチ

表2 キュウリに対する防除薬剤例(2025年12月17日現在の農薬登録情報に基づく)

使用時期・使用方法	IRACコード	薬剤名
【育苗期：粒剤施用】	4A	アルバリン粒剤 または スタークル粒剤
	4A	ベストガード粒剤
【育苗期後半～定植時：灌注】	23	モベントフロアブル
	28	ベリマーク SC
【定植時：植穴施用】	4A	アドマイヤー1粒剤
	4A	ダントツ粒剤
【散布】	4A	アルバリン顆粒水溶剤 または スタークル顆粒水溶剤
	4A	モスピラン顆粒水溶剤
	5	ディアナSC
	6	アファーム乳剤
	9B	コルト顆粒水和剤
	15	マッチ乳剤
	21A	ハチハチ乳剤
	30	グレーシア乳剤
	—	サンクリスタル乳剤

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002>

農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。